

町政に関する

一般質問の主題

川上 力

- 新町長の所信を問う
- スポーツと健康長寿のまちづくり
- 公共交通基本計画の政策を

庄子 敏一

- 北部サービスセンターは北部地区の活性化につながっているのか
- 地域密着型デイサービスの今後

増田 等

- 今後の町の発展のための、町内道路網の整備
- 松伏町の公共施設の維持管理
- 町の観光事業育成
- 町制50周年記念事業

山崎 隆一郎

- 町の未来像
- 小中学校の暑さ対策
- 役場の森
- 記念証の発行
- 電子母子手帳導入

福井 和義

- 人口減少時代の介護
- 教育の長時間勤務

長谷川 真也

- 自治会連合会の強化と自治会の脱退防止、生活基盤

一般質問の会議録全文は町のホームページから検索できます

の改修工事

- 大災害の際の町の対応
- 町のPR

松岡 高志

- 新町長が目指すまちづくり「人口減少にストップ」の具体的なビジョンは
- 小中学校の英語教育への支援充実を
- 防災行政無線の情報伝達体制の充実を

鈴木 勉

- 新町長の公約実現に向けたプロセスと実現の目標時期はいつなのか
- 下赤岩地区内のバス停の安全対策、横断歩道の設置を
- 再任用職員の格付け基準の公平実施を

平野 千穂

- 松伏小学校の学童保育の施設増設で待機児童をなくせ
- 学童保育料の負担軽減、延長保育の実施、指導員の処遇改善をおこなえ
- 町の保育所の待機児童解消

吉田 俊一

- 新町長の町政運営を問う
- 自治体国民健康保険の広域化・方針原案についての町の認識と対応

田口 義博

- ホストタウン構想に対する町の対応

11人の議員が町政を問う



川上 力 (公明党)

Q 乳がんのセルフチェックシートを

A セルフチェックの習慣化は重要

問 乳がんの早期発見・早期治療を可能にするセルフチェックシートは1枚65円です。がん検診の受診率も低いことから導入配布してはどうか。

答 福祉健康課長 導入済みの自治体の取り組みは評価できる。セルフチェックの習慣化は大変重要であることから、どんな方法が良いのか、研究していく。

問 小中学校へのエアコン設置は、町民の熱い期待がある。ごみ減量で財源を捻出すると町長選挙で主張していたが、ごみの減量は町民の協力が必要。いくらの財源を見込んでいるのか。また、どのような町民運動としていくのか。

答 町長 小中学校へのエアコンの設置は必要不可欠と認識している。導入にあたっては事業費が高額であるため、最も効率的な方法の調査研究を指示した。維持管理費用(ランニングコスト)は、ごみ減量に伴う東埼玉資源環境組合への負担金軽減分を活用するべく検討している。町の平成28

年の1人1日当たりの家庭ごみ排出量は約559.73gで、5市1町で最も多い。仮に最も少ない越谷市の約504.67gまで、約10%の減量がなされた場合、試算で年間約800万円の削減見込みとなる。

環境経済課長 「生ごみは捨てる前に水切りキュッとひとしぼり」をキャッチフレーズに啓発活動などを展開し、可燃ごみの発生量抑制に取り組んでいき、動向を見て必要な施策を調査・研究していく。





荘子 としかず (新自民クラブ)

Q 北部サービスセンターの活性化は

A 今後、ソフト事業を促していく

問 北部サービスセンターで住民票や印鑑証明を取得した町民は1日あたり何人いたか。

答 住民ほけん課長 1日あたり0.6人だった。

問 北部サービスセンターは、住民票の申請発行業務も北部地域活性化を目的にしていたが、的外れではないか。

答 住民ほけん課長 住民の利便性が向上している。

問 北部サービスセンターを利用している団体は、老人福祉センター時代と違っているのか。

答 住民ほけん課長 旧老人福祉センターの利用状況から変わっていない。

問 北部サービスセンターを多くの住民が集まる憩いの場にするのは非現実的ではないか。

答 住民ほけん課長 今後、積極的にソフト事業を展開し、多くの人が集まる施設となるよう各課に促していく。

問 町に道の駅が出来たら、人の動きも変化する。第5次総合振興計画の位置づけを見直す必要があるのではないか。

答 住民ほけん課長 北部サービスセンターとその周辺地域は、北部地区の活性化を図るため、施策を展開していきたい。

町長 根本的には継続の方向で行きたい。



「住民票の発行は別な方法もあるのでは」



増田 等 (自民クラブ)

Q 町制50周年記念事業について問う

A 「巡回ラジオ体操」の実施も検討

問 町発展のための、今後の町内道路網の整備を問う。

答 新市街地整備課長 東埼玉道路と浦和野田線、既存の県道と町道3号との結節点6箇所には信号機が設置される。東埼玉道路両側には「副道」が設置され、農耕車両や歩行者の安全が確保される。既存主要町道との結節点13箇所は、信号機なしのクローバー型交差点を計画している。新規道路整備は慎重な検討が必要と認識している。

問 今後、大きな負担増が予想される町の公共施設の維持管理について問う。

答 企画財政課長 平成28年策定の「松伏町公共施設総合管理計画」の下、本年より個別施設計画を策定していく。有効な財政措置を取って更新費用を平準化し計画的な修繕を実施していく。統廃合等の可能性も検討する。

問 町内の観光資源の付加価値向上と経済効果を高めるための観光事業育成について問う。

答 環境経済課長 町の強みである美しい自然環境と景観を重要な観光資源として維持保存に努める。観光協会の組織化については、機運が高まった時に設立に対して支援をしていきたい。

問 松伏町町制施行50周年記念事業について問う。

答 町長 町への興味、愛着を促す冊子の作成を検討。

企画財政課長 今月設置の松伏町制50周年事業実行委員会、町制50周年事業プロジェクトチームで検討。

教育文化振興課 50周年記念事業として、ギネス記録を含めた「巡回ラジオ体操」の実施も検討。



本年度改修工事される赤岩地区公民館



山崎 隆一郎 (公明党)

Q 便利な電子母子手帳の導入を

A 費用対効果の面で検証が必要

問 町の未来像を、住民にもっと解りやすくする為に、言葉だけでなく透視図や鳥瞰図などを描き見える化を図り、解り易く伝えられないか。

答 **企画財政課長** 計画には検討や調整などがあり、形状などがまだ確定出来ていないことから、すぐに示すことは出来ないが、進捗を見極めて、時期等も含め検討する。

問 小中学校の暑さ対策について、エアコン設置は議会でも何度も取上げているが、未だ実現していない。そこで、暑さ対策のひとつとして、外壁を覆うグリーンカーテンの設置はどうか。

答 **教育総務課長** 熱中症対策の為に、水筒を持参させ、適切に水分補給出来るように対応している。またグリーンカーテンは、本年度、金小、松伏二小、松中の各校で実施します。

問 役場西側に、こんもりとした雑木林がある。ここはなにも使われていないが、ここにベンチを置いて憩いの広場、寛げる空間に出来ないか。

て憩いの広場、寛げる空間に出来ないか。

答 **総務課長** 除草や繁茂した低木等の剪定を行い、親しみやすく、寛げる空間になるように努めています。

問 スマートフォンのアプリで、電子母子手帳がある。無料で子育て記録や予防接種情報など、便利で楽しく使える電子母子手帳で、約7割のママさんは利用したいと答えている。町でも導入出来ないか。

答 **福祉健康課長** アプリの認識はしているので、今後導入している自治体の運用を十分に検証、研究していく。



福井 和義 (無所属クラブ)

Q 人口減少時代の介護について

A 人材確保、サービス向上を図る

問 松伏町は、急激に人口減少が進んでいる。平成27年は273人、28年は201人減少している。そして、29年4月1日の人口は、2万9989人で3万人の壁を切ってしまった。一方、高齢者は爆発的に増加して、介護士、介護施設などの不足が予測される。また、10年後には、団塊の世代が75歳になり、介護を必要とする人が増える。これらの問題を解決するには、介護士の確保、介護施設の増設、介護予防の充実が必要となる。町の人口減少について、どのように考えるのか。

答 **企画財政課長** 人口減少に対する問題は、重要課題として位置づけ、優先的に進めていかなければならない問題であると認識している。

問 人口が減少している原因は何なのか。

答 **企画財政課長** 町の人口が減少している原因は、公共交通の利便性、買い物等の生活行動の利便性、就労の場の不足等によるものが原因である。

問 高齢化率は高くなっていく、どのような傾向か。

答 **住民ほけん課長** 高齢者人口は増加傾向を示し、平成32年の高齢化率は、28%台になる。

問 町は、介護士の確保をどのように行うのか。

答 **住民ほけん課長** 介護従事者の適正な人材確保、サービス向上を図るため、努力する。



地域包括支援センター



長谷川 真也 (町民クラブ)

Q 大災害の際職員が対応出来るのか

A 非常時に備え訓練を行っている

問 地域の安全対策、土木の改修工事の予算工事の順番付けを連合会に委ねてはどうか。

答 **総務課長** 地域の状況を詳しく把握しているのは地域住民の方々であることは、十分認識している。要望を基に、関係課において状況を再確認するなどして、町全体からみて工事等の緊急性や必要性を踏まえて出来るだけ地域の声を反映していきたいと考える。

問 職員と自主防災組織の避難所での合同訓練を行うべきではないか。

答 **総務課長** 今後自主防災組織や自治会と連携し、避難所備蓄品を用いた開設訓練の実施にむけ取り組む。

問 松伏町が住みやすい町だと町外にアピールするべきであると考えますが、町の見解を伺う。

答 **総務課長** 今年度、町の魅力を効果的に発信し、認知度を向上させるため、若手職員に情報発信に

敏感な大学生と報道の専門家であるマスメディアを構成員に加えた委員会を設立し、「松伏町シティープロモーション戦略」を策定する予定。



町のホームページ



松岡 高志 (自民クラブ)

Q 新町長が目指すまちづくりは

A 若者のアイデアが活かされるまち

問 新町長が目指すまちづくり「人口減少にストップ」の具体的な方向性とビジョンは。

答 **町長** 子育て家族に転入して来ていただきたい。そのため、小中学校へのエアコン設置は近隣市で進んでいるので必要不可欠であり、学校給食費の軽減は来年度予算に組み入れていきたい。子育ての公園づくりについて、子どもたちの脳の成長を促す公園、スポーツの練習ができる公園をつくっていく。文化面では、自由に音が出せる場所の確保、本に親しめる子どもをつくるため、赤岩地区公民館の図書など、本の利活用を図っていききたい。町制50周年の記念事業の企画づくりでは、若者のアイデアが活かされる、若者を集めた会議を開きたいと考えている。貸し農園については、今年度は候補地を絞り込んでいく予定である。

問 「松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進について、どう取り組んでいくのか。

答 **町長** 本年度、大正大学、埼玉新聞社と連携して、新たな戦略の策定に取りかかっている。県補助金を活用した、松伏特産品開発事業の展開。国の交付金で、赤岩地区公民館を改修し、多世代交流拠点として、より積極的な事業展開を図っていく。

* その他の質問

小中学校の英語教育の充実について
防災行政無線の情報伝達体制の充実について



今年度地方創生で全面改修される赤岩地区公民館の図書コーナー



鈴木 勉 (無所属クラブ)

Q 新町長の公約実現の目標時期は

A 4年の任期中に計画、実施したい

問 新町長は、先の町長選挙において「人口減少にストップ」をはじめ様々な公約を掲げていた。その公約は、政策として評価、共感できる点も多く、大いに期待する。公約の主要政策である①小中学校のエアコン設置、②学校給食費の第2子以降の減免制度、③子育て世帯の一定のローン設定者の固定資産税の減免制度、④子育て世帯転入者の引越し費用の補助、⑤わんぱく公園など子供向けの特色ある公園設置、⑥バーベキュー広場の設置、⑦町営貸農園の設置、⑧誘致企業の固定資産税の減免など、実現のプロセスと目標時期はいつなのか。

答 町長 事業実施にあたり、制度の構築や変更、予算措置が必要になる。町財政状況を勘案し、4年間の任期の中で計画を立て、施策・事業を展開、町民の皆さんが主体となるよう新しい風を吹かせながら、町づくりを進めたい。

問 町政全般の課題認識と今後の方策は。

答 町長 最大の課題は、人口減少問題である。その解決のため「各世代が笑顔あふれるまちづくり」を政策目標とする。既に平成29年度予算で動いており、制度変更や予算措置が必要なことから、大きな事業を実施する上では難しい面があるが、多額の予算をかけずとも改善、改革できることは速やかに実施していきたい。



新町長の公約の一つ貸農園
(写真は吉川市の市民農園)



平野 千穂 (日本共産党)

Q 町内保育所の待機児童をなくせ

A 保育士確保のための方策を研究していく

問 0歳～2歳で多くの待機児が出た要因はなにか。
答 福祉健康課長 保育士確保ができなかった事が要因。町立保育所の派遣保育士の不足については、状況確認をして他の方策があるか研究していく。

問 子育て支援の充実や待機児ゼロの町は、住民の願い。今後の保育需要についての町の予測と対策は。

答 福祉健康課長 平成25年の調査で、保育需要は年々減少していくと予想。保育の民間委託を推進。

答 町長 民間保育園の経営の安定化を図り、町立保育所が受入の調整役となる。町立保育所に正規保育士を雇用した場合、大きな人件費の持ち出しとなるため、派遣保育士で対応したい。

問 「松小学童保育の施設増設で待機児童をなくせ」定員140人に対し申請が173人あり、高学年21人が入所できなかった。施設増設や余裕教室の活用で待機児童をなくせ。

答 福祉健康課長 児童数は減少したが、学童の利用希望は増加した。一時的な可能性もあり、新施設

は予定していない。

問 「学童保育料の更なる負担軽減、延長保育の実施、指導員の処遇改善をおこなえ」

答 福祉健康課長 様々な子育て支援策を実施しており、更なる減免制度は予定していない。指導員の処遇については、指定管理の仕様に含まれていないため、把握していない。

町長 学童の延長保育の必要性は認識している。

町内の学童保育 入室人数(H27～H29)

	学童名	定員	27年度	28年度	29年度(申請人数)
松小	いるか	70	77人	83人	77人(102人)
	りす	70	77人	79人	75人(71人)
二小	どんぐり	60	57人	61人	60人(56人)
	なごみ	70	44人	39人	33人(31人)
金小	杉の子	45	50人	37人	39人(39人)
民間	かしのき	40	39人	39人	49人(50人)
6学童計		355	344人	338人	333人(349人)



吉田 俊一 (日本共産党)

Q 広域化で国保税を値上げするな

A 第3回試算の発表をふまえ対応

問 平成30年度から予定されている市町村の国民健康保険の広域化。県単位で、財政運営の中心は県が担う「県と市町村の共同運営」という、新しい形態になる。現在、ワーキンググループ・作業部会によって県単位化にむけ、①運営方針原案 ②第2回シュミレーションによる納付金と標準保険税の試算が発表されている。この内容には大きな問題がある。国保税の負担を抑えるため町が政策的に支出していた一般会計繰入金を「解消すべき赤字」とみなし、「6年間で解消する事を市町村の責任とする」となっている。標準保険税の試算も、県平均で140%の値上げ、2年前税率改正した松伏町は124%の値上げとなる試算だ。国の財政責任を方針に明記させること。国保税負担軽減のために町は努力すべきだ。

答 町長 国の財政責任を求める意見は理解できる。できれば一般会計の繰入金を減らしたい。現在の金額を増やすことは難しいだろう。健康増進の対策を行い医療費が増えない努力を行いたい。

答 住民ほけん課長 今後、第3回のシュミレーション・試算が行われ、さらに市町村への意見照会も行われる。動向を注視し対応していく。

標準保険料(1人当たり保険税額)の第2回シュミレーション(抜粋)

	平成28年度実績	平成29年度ベース試算	
	現在の1人当たり保険税 (保険税軽減前) 円	新制度での 一人当たり 標準保険税 円	増加率
松伏町	105,934	131,583	124.21%
越谷市	101,034	141,806	140.35%
草加市	95,320	133,163	139.70%
春日部市	100,930	125,753	124.59%
三郷市	95,888	140,650	146.68%
八潮市	111,648	152,249	136.37%
吉川市	100,304	136,854	136.44%
全県	96,143	135,081	140.50%



田口 義博 (自民クラブ)

Q ホストタウンで子供達に夢を

A 機会があれば積極的に参加する

問 2013年9月7日、先のオリンピック・パラリンピック委員会ジャック・ロゲ会長が、2020開催国を示すカード、東京と読み上げた。国は大会を支える事業の一つとして、ホストタウン構想を全国都道府県・政令都市向けに説明会を実施した。町はどのように認識し、また対応したのか。

答 企画財政課長 全国の地方自治体と参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図り、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、政府全体で推進している取り組みである。26年度に検討したが、宿泊施設や競技者が調整できる施設を町は所有していない。競技者のパフォーマンスを十分に発揮することが難しいため、手を挙げなかった。

問 2020東京オリンピック・パラリンピックは児童生徒にどのような効果と期待を持っているか。

答 企画財政課長 チャレンジすることや努力することの重要性を学び、スポーツをしようとする意欲

の向上、生涯にわたってスポーツに積極的に参加することに繋がる。

問 町として大会に小中学生を招待する考えはないか。

答 企画財政課長 現在、予定はしていない。各種競技団体等から招待の機会があれば、積極的に参加していく。



埼玉県内で開催予定のゴルフ競技